

第 8 回新市の事務所の位置及び新市建設計画策定小委員会会議結果報告書

開催日時	平成15年11月22日(土) 9:00~11:47					
開催場所	宮城県古川合同庁舎 大会議室					
委員の出欠	委員長 (田尻町長)	堀江 敏正		委員 (岩出山町議会議員)	佐藤 智	
出席者 欠席者×	副委員長 (古川市議会議長)	佐藤 清隆		委員 (鳴子町議会議員)	大場 常男	
	副委員長 (鳴子町住民代表)	吉田 惇一		委員 (田尻町議会議員)	嶋田 穎夫	
	委員 (古川市助役)	橋本 正敏		委員 (古川市住民代表)	門脇 基	
	委員 (松山町長)	狩野 猛夫		委員 (古川市住民代表)	高橋 義宣	×
	委員 (三本木町長)	佐藤 武一郎		委員 (松山町住民代表)	小原 文夫	
	委員 (鹿島台町長)	鹿野 文永		委員 (松山町住民代表)	丸 一男	
	委員 (岩出山町長)	佐藤 仁一	×	委員 (三本木町住民代表)	伊東 茂	
	委員 (鳴子町長)	高橋 勇次郎		委員 (三本木町住民代表)	工藤 俊一	
	委員 (松山町議会議長)	氷室 勝好		委員 (鹿島台町住民代表)	武藤 利孝	
	委員 (三本木町議会議長)	高橋 源治		委員 (鹿島台町住民代表)	阿部 雅良	
	委員 (鹿島台町議会議長)	門間 忠		委員 (岩出山町住民代表)	佐藤 技	
	委員 (岩出山町議会議長)	遠藤 悟		委員 (岩出山町住民代表)	鹿野 孝	
	委員 (鳴子町議会議長)	中鉢 昇		委員 (鳴子町住民代表)	八畷 利恵	
	委員 (田尻町議会議長)	三神 祐司		委員 (田尻町住民代表)	及川 睦男	
	委員 (古川市議会議員)	佐藤 勝		委員 (田尻町住民代表)	白旗 成典	
	委員 (松山町議会議員)	小笠原 康次		委員 (宮城県市町村課)	菅原 久吉	
	委員 (三本木町議会議員)	三浦 幸治		委員 (古川地方県事務所)	千葉 修生	
	委員 (鹿島台町議会議員)	畑中 理一郎	×	出席者 34 名・欠席者 3 名		
事務局	協議会 会長 佐々木謙次, 事務局長 佐藤吉昭					
	事務局次長 千葉義明, 事務局次長 岡本 透					
	財政班: 班長 金森正彦, 主任 佐々木雅一, 班員 遠藤 愛					
	計画班: 班長 千葉博昭, 主任 赤間幸人, 班員 高橋 健					
その他	岩出山町 千葉助役, パシフィックコンサルタンツ(株): 井口高夫, 安本賢司, 川村 恵					
傍聴者	一般 6 名 ・ 報道関係 2 名( 2 社)					
委員長の署名						

## 会議次第

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 協議事項

- ・ 新市建設計画 第5章「新市の施策」について
- ・ 新市建設計画 第8章「財政計画」について
- ・ 次回開催日程について

#### 第9回小委員会

日 時 平成15年12月20日(土) 午前9時30分～

開催場所 古川市合同庁舎 1階 大会議室

### 4. その他

### 5. 閉会あいさつ

### 6. 閉 会

## 議事の概要

### 1. 開会・・・事務局 計画班 赤間主任（司会進行）

### 2. あいさつ・・・堀江委員長

### 3. 協議事項

堀江委員長・・・新市建設計画第5章「新市の施策」について事務局に説明を要請。

事務局 千葉次長・・・前回小委員会にて提示した5 - 1新市将来像の実現に向けての施策展開の視点については、「子どもたち」を核として施策を展開する内容が唐突であるということや、子どもを中心とした施策展開のイメージが従来の「虹」からかけ離れているなどの意見が多数あったことから、5 - 2主要施策の指摘事項も含め、東北大学の先生の助言を頂きながら全面的に見直した。資料編 新市建設計画(ハード事業)に係る事業一覧(案)については、一体性事業として新たに提示した9事業の事業概要を説明し、留意点として、事業費は類似の事業を参考に算出しているため、今後の具体的な検討により変動する可能性がある旨を付け加えた。第6章宮城県事業の推進については、県へ要望した11事業についての回答が11月25日の予定となっており、その回答を踏まえて12月5日の協議会で提示することで了承して頂くようお願いした。

事務局 千葉班長・・・新市建設計画一体性事業の道路事業について、環状道路及び地域連携道路の考え方や路線位置などを、函面(A3)に基づき説明した。

堀江委員長・・・第5章について、委員への意見・質問を要請。

三神委員・・・高速道路はネットワークの伸張であり、長者原の高速道路ミニインターチェンジ整備事業は、ビジネス・レジャー等の活性により経済効果も上昇するものと受け止めている。この事については、今から国・県への働きかけが必要と考えるが、事務局は具体的にどのように考えているのか質問。

事務局 佐藤局長・・・一体性事業の総事業費・合併特例債充当額は、他の事例を参考に計上した概算であり、新市移行後の総合計画などで具体像を描く事になると回答。また、ここで想定しているミニインターは、三本木PAもしくは長者原SAの考えがあると説明。

佐藤副委員長・・・19 ページ上段の「国や県への依存」という文言に違和感がある。もしこの部分を削除するならば、「都市部への依存」「行政への依存」の順序を逆にした方がいいのではないかと。また「環境への依存」ではなく、「環境への負荷」ではないだろうかとの意見。次に19 ページ下段は、国と連携した行政展開が必要であり、「地方政府」と「国」を対等に表現するのはどうかとの意見。次に、21 ページ の「中央政府とは違う役割を担う地方政府」という表現は良いと思うが、その前文を検討した方がよいのではないかととの意見。

事務局 佐藤局長・・・「国や県への依存」は、現在一般に使われているという認識を持っている。「環境への依存」については、前文の流れから「環境の負荷」の方が的確かと思うので検討す

る。また、「地方政府」と「国」を対等に表現することについては検討させて頂くが、一般的に使われていると認識している。21 ページ については、良い文言があれば指導を頂きたいと回答。

鹿野（文）委員…19 ページ「対等」の所に、「協力」を付け加える事を提案。

佐藤（勝）委員…20 ページ「施策展開の視点」が2つある事がくどくはないか。テーマと視点は同じではないだろうかと思見。

事務局 佐藤局長…視点を入れようという考え方は、できるだけ地域に合った分かり易さを強調したかった。見方によってはくどいという事もあるかとは思いが、切り口を二つに絞り込みたいという思いがあったと回答。

佐藤（勝）委員…視点が2つあるが、1つにできないだろうか。1つにすることによって、すっきりするのではないかと意見。

事務局 佐藤局長…視点を二つに分けた理由は、前段「より良いまちを伝えのこす」というのは、1市6町それぞれの地域特性・良さを今までのように大切に育てて残すという事であり、また「豊かなまちを紡ぎあげる」というのは、新市になった時の一体性の創造という意味であることから、あえて分けて掲げていると回答。

佐藤（勝）委員…これらの視点は当たり前の事のような気がする。1つにした方がすっきりするのではないかと意見。

遠藤委員…将来像と展開の視点は同じだと思う。二重に表現しなくても、スリムにして良いのではないか。テーマ・虹・将来像のイメージ図だけでも、新市の意図は十分につかめるのではないかと意見。

堀江委員長…この事案について委員に意見を要請。

八鍬委員…くどく書きたいほど、それだけ強調したいという事は伝わってくる。どのように表現するかはお任せすると意見。

白旗委員…あえて強調しても良いと思う。しかし表現として、「豊かなまちを伝えのこす」「より良いまちを紡ぎあげる」の方が良いのではないかと意見。残すものに対して「より」という表現を用いるかが疑問であると意見。

堀江委員長…委員の意見に対して事務局に回答を要請。

事務局 佐藤局長…委員の意見を基に検討し、委員長・副委員長に相談の上、12月5日の協議会に提案したいと回答。

堀江委員長…事務局の提案を委員に諮る。

委員…異議なし。

堀江委員長…その他について委員へ意見を要請。

遠藤委員…本編25 ページ 「交通の結節点としての位置」の結節点というのは、一般的に馴染みが無いのではと感じる。「交通網の要としての位置」という表現が良いのではと思う。35 ページ上段「家畜糞尿処理施設等建設事業」とあるが、法律では「家畜排泄物等」といった文言になっていたと思うので、変更した方が良いのではと意見。

堀江委員長…意見を頂いた2つの文言について、検討修正することを事務局に要請。

事務局…承諾。

千葉委員…25 ページ 「都市計画道」は、「都市計画道路」というのが一般的な表現なので、検討頂ければと意見。

佐藤（技）委員…資料編1 ページ、新庁舎建設事業について、概算事業費として計上している60億円は、建設規模・用地関係を含め、どの程度の規模のものができるのか、算定の根拠について質問。

事務局 千葉次長…過去の同規模の庁舎建設の事例等から、建設の単価は1平米当たり30万円、建物面積については2万平米で算出した。これらの単価や規模については、あくまでも過去の例から算出していると説明。

堀江委員長…新市建設計画第5章「新市の施策」については以上とする。次に新市建設計画第

8章「財政計画」について事務局に説明を要請。

事務局 岡本次長・・・新市建設計画に係る20年間の財政シミュレーションについて、推計にあたっての基本的な考え方・前提条件、歳入歳出の項目別手法、国・県の財政支援内容、普通交付税（通常分）の推計方法、地方交付税の段階補正の見直しなどについて資料に基づき説明した。

事務局 金森班長・・・第8章「財政計画」について、財政シミュレーションに基づいた歳入・歳出の項目ごとの推計概要や、平成17～26年度の項目ごとの推移について、建設計画に掲載する10年間の財政計画を資料に基づき説明した。また、今回の推計は、地方債の発行を400億円とし、一体性事業の200億円を10年間で均等に配分しているが、今後承認頂いた一体性事業を年次計画で配分した形で12月5日の協議会に提示したい旨の説明をした。

堀江委員長・・・ここで10分間の休憩とする。

<10分間 休憩>

堀江委員長・・・第8章について、委員への意見・質問を要請。

鹿野（文）委員・・・54・55ページの財政計画一覧について、平成17年度から平成26年度までの合計で約120億円の開きがあるが、原因となる項目について上位10項目程度を整理して頂き、詳細な資料の提示をお願いしたい。同様に歳出の詳細もお願いしたいと依頼。

事務局 岡本次長・・・普通建設事業費については、歳入から普通建設分以外を除いた全てを歳出の普通建設事業に置き換えてシミュレーションしている。主な原因としては、1市6町が現在の総合計画や実施計画に基づいて行っている継続事業が17～19年くらいに集中するためと考えられるが、上位10件については、今回の協議会までに整理し提示する。また、一体性の200億円については、10年間に均等配分しているが、本日協議頂き一体性事業が決まったので、それを財政的にどの年度に充てるのが一番健全な財政運営を図れるのかを検討し、それを全て置き換えた上で再度提示すると回答。

門間委員・・・各地域のインフラ整備率を今後どのように考慮していく考えなのかと質問。

事務局 岡本次長・・・地域別事業や一体性事業以外の建設事業に対する質問と思うが、普通建設事業費には、合併特例債や通常債を充てる事業のほか、一般財源として10年間で180～200億円程度出てくるのではないかと考えており、この一般財源をそういった事業に充てていくことを考えていると回答。

門間委員・・・各市町のインフラ整備率というものをどのように捉え反映していく考えなのかと質問。また、現在の経済状況を考えると、できれば前倒しで事業を進めた方が、最終的にはコスト削減になるのではないだろうか。それらについてどのように考えているのか質問。

事務局 佐藤局長・・・事業の実施時期については、新市へ移行後、実施計画の中で詳細に検討するものとするため、意見として伺うと回答。

堀江委員長・・・門間委員の質問である「各地域のインフラ整備率の格差是正は、この計画の中で検討しているのか」について事務局に回答を要請。

事務局 佐藤局長・・・現段階で、整備率の整理はしているが、この計画の中で遅れている整備率を上げようというところまでの検討は困難であるため、新市で検討するものと考えていると回答。

鹿野（文）委員・・・第8章財政計画を説明資料として考える場合、重要な問題を加える必要があると思う。合併の理由として、財政的理由が一般化されているため、各市町の合併した場合となかった場合の財政シミュレーションの比較を明示し、これらを第8章の財政計画の中に文言で表現した方が分かり易いと思う。また、もっと詳しい数字が必要であれば別紙に記載することも必要ではないだろうかとの意見。

堀江委員長・・・任意協議会段階の財政シミュレーションについては住民の皆様に提示しているが、今回のシミュレーションについては提示していないところである。この事について事務局に回答を要請。

事務局 岡本次長・・・新市建設計画の先進事例等を見ると、本日提示している程度の内容であるため、本編についてはこのような形に留めさせて頂きたいが、参考資料の中で比較も含めて明

示することで理解願いたいと回答。

堀江委員長…数字的には参考資料で提示するという事で良いと思うが、本編に文言を挿入するという事について事務局に意見を要請。

事務局 岡本次長…本編で表現するという事であれば、任意協議会の段階で作った歳入・歳出を総体的にグラフ化したものを更新し、合併した場合としなかった場合の比較を表示することで検討すると回答。

鹿野(文)委員…合併した場合としなかった場合を本編に表示する事は、全体のバランスを考えて検討して頂きたい。特にこだわらないので、何らかの形で説明資料として活用できるものにして欲しいと意見。

白旗委員…財政計画において、平成17年以降の歳入歳出が減少していくことは、行政のスリム化によるものと理解できるが、平成17~21年度と平成22~26年度の減少の割合が極端であり、公共事業等が短期間で急激に減少することで、地域経済へどのように影響するのかが心配されると意見。

事務局 金森班長…今回のシミュレーションでは、各市町個別事業の継続分が平成17~19年度に集中しており、また、一体性事業の200億円を10年間に均等配分していることから、このような推移になっている。本日一体性事業を承認頂いたことにより、次回提示の際は、一体性事業を適正年度に配分することにより、財政規模は各年度横ばいで推移するものと考えていると回答。

門間委員…新市の政策的な判断とも考えられるが、地域住民の方々は、合併というものにある程度の期待をしているものであり、合併した事によって地域の一体性を保つための手助けとして、前倒しの建設事業が考えられて然るべきではないか。例えば、平成17年度の一般会計の598億円は、現在各市町の一般会計予算のトータルとどのように違いがあるのか質問。

事務局 金森班長…各市町の単純合計であるが、投資的経費を一般財源ということで算出した額が約450億円であると回答。

事務局 岡本次長…財政シミュレーションの普通建設事業は、歳入から歳出を引いたものを普通建設費として計上しており、それ以上のものを前倒し的に大きく行うという事であれば、例えば基金から取り崩して充てるとか、そういった手法になるかと思う。しかしシミュレーションの中では、基金を取り崩したとしても同額を積み立てるという事で、基金についても維持していくという考え方であり、それ以上の事は政策的な判断にもなるかと思うと回答。

鹿野(文)委員…日本経済が壊れてしまったのは、経済のパラダイムがここ10年間で再現されなかったからである。今回の合併の意味も、合併という新たなものによって、地域活性化のための新たなパラダイムを築き上げていく事であり、未来の子どもたちに残す我々の課題であるという観点で捉えるべきと思う。合併には明日の発展への知恵あるいは引き出すべき想像力が潜んでいるはずであり、そのような経済的な波及効果が具体として現れるのが財政計画であると考えている。コンサルや経済学者の力を借り潜んでいるものを引き出し、またシンポジウムを開催するなど、合併ブームを地域ぐるみで盛り上げていくことを考えていかなければならないのではと話題を提供。

吉田副委員長…関連で、経済を発展・活性化させるには、地域ブランドをどう高めていくかが重要である。日本人が今欲しいものは、生活の安全や心の豊かさであり、そこにある「want」に対してどのようなものが必要かという検討が始まる。地域のブランド力を高め、他所からこの地域に住みたいという地域をどう創るか、自らを創っていくための予算、まちづくりであって欲しいと考える。皆さんが話しを聞きたいという事になれば、講師の紹介もするとの意見。

堀江委員長…コンサルタントへ意見を要請。

パシフィック 井口…私共は全国的にも、いろいろな合併の支援業務を行っており、他の事例も含め、事務局と相談させて頂きたいと回答。

氷室委員…新市建設計画の財政計画は重要な部分であると考えているが、これについて市町長の話し合いはあったのか。無いままに本小委員会で議論しているのか質問。

佐藤(武)委員…経済の発展・活性化などについては、第5章で表現してはどうだろうか。協議会の段階では、それ以上の財政計画は出せないと思う。それは新市が誕生してから、そのような事を意図した政策を実現していく事になるのではないだろうか。第5章に夢をたくさん盛り込み、将来像を描くという事はあっても、財政計画では難しいのではないかと意見。

狩野委員…ある程度の論議内容などの確認は必要であるが、事前の市町長会議で全てを議論したのでは、小委員会が必要なくなる。具体的で無いにしろ、それぞれが新市の将来に大きな夢を持ってここまで来たはずである。もう一度それぞれが合併をどのように考えているか確認する必要がある、また、日本の行政システムが破綻したから合併しようという事が欠落していると思う。新たな行政運営を創っていかねばならない我々が10年を展望した場合に、「このような夢のあるまちを我々が将来に残そうではないか。その為には、財政的にこのような形で継承していく必要がある」という形を作り上げることを考えていくべきであり、これ以降の事業計画は、新市の市長が担うことと考えるとの意見。

丸委員…数年前の地域振興券の反省を踏まえ、「必要なもの」ばかりでなく、「欲しいもの」に視点を向けるべきと考える。合併してどのように良くなるのか、どのような夢が描けるのかという事を、厳しい財政の中でもどんなものが「欲しいのか」という事を課題として検討する心構えも必要ではないだろうかとの意見。

堀江委員長…これまで第5章の検討、更にはそれらを裏付ける財政的な面も含めて、事務局の提案があり、皆様に提言を含めた意見を頂いてきた。やはり、合併によって夢を抱ける計画を立てていかねばならないという事は基本であるが、そういった計画にはある程度の財政的な裏付けも伴わなければならないという事もある。しかしながら、具体的な施策について、どう位置付けていくかという実質的な面については、新市の段階で検討するものであり、そこまでこの協議会で固める事は出来ないのではないかと考える。従って、本小委員会に付託された案件については、これからの1市6町新たな市民になる皆さん方の、夢に繋げる方向付けを示していくという形になるように、提言を頂いた文言の整理を、次の機会までに事務局と相談しながら、いい形で表現できるような方向にまとめていきたいと確認。

氷室委員…政策を立案し、それに伴って予算を編成していくのは、各市町の長の大きな役割だと認識している。そのような中で、各市町長が重々知り得ないまま本小委員会で議論することに疑問を感じる。極めて大事なことであるので、各市町長で議論されて、尚且つ経済の問題・活性化の問題が、職員や住民の方々から出てくる形が好ましい姿ではないかと意見。

堀江委員長…意見として承ると回答。本日の小委員会は、先程申し上げた方向で今後進めてよいか委員に確認。

委員…異議なし。

堀江委員長…次回以降の開催日程について事務局へ説明を要請。

事務局 千葉次長…前回小委員会で承認されているが、第9回小委員会につきましては、12月20日土曜日、午前9時30分から古川合同庁舎1階大会議室で開催と説明。

堀江委員長…以上で協議事項を終了する。

4. その他…なし

5. 閉会あいさつ…佐藤副委員長

6. 閉会…事務局 計画班 赤間主任